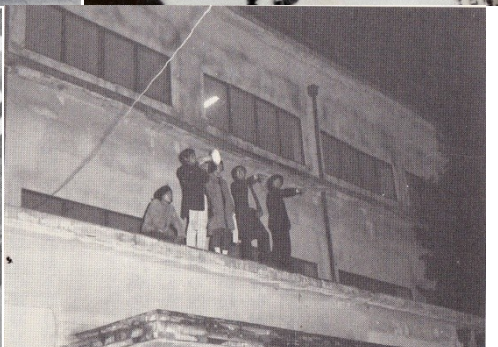
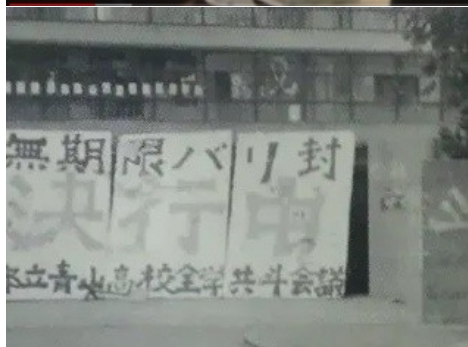
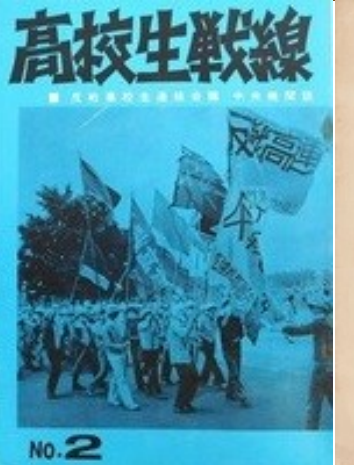
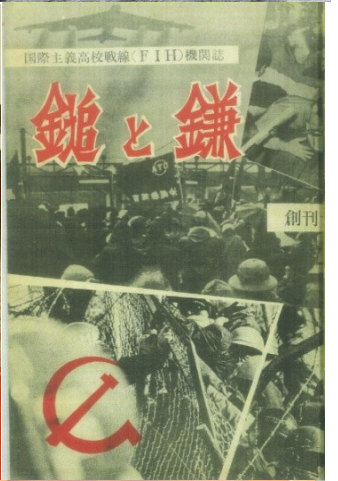
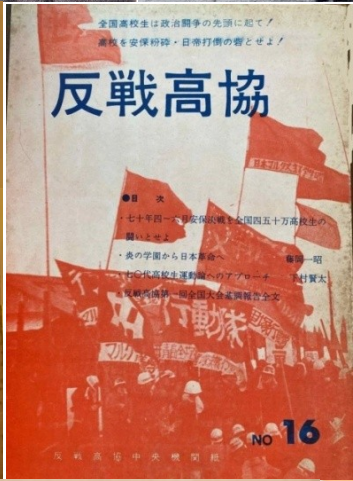
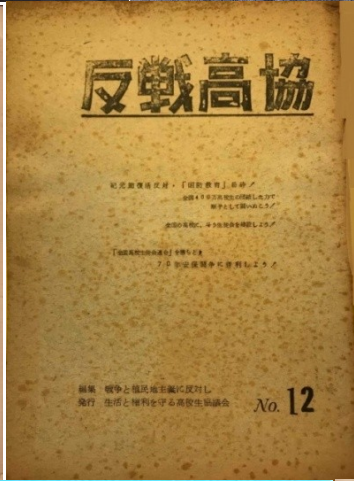
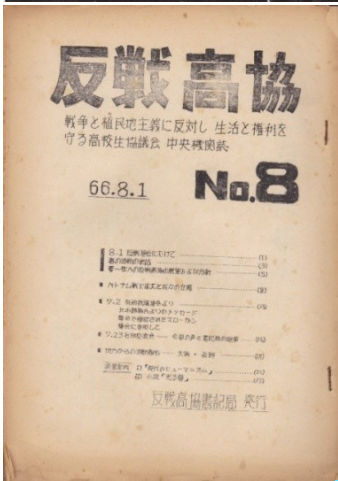


反戦派高校生運動クロニクル

～1960年代～70年代～

2023年7月11日更新





*** 関西の高校年表⇒青字**

*******前史 1945—1960 年*******

- 1946年**.....
- (12月1～3日日本共産党第四回大会/再建大会「行動綱領」・書記長—徳田球一)
- 1947年**.....
- 9月25日和歌山県立新宮高校/「新宮高校新聞」創刊
- 1948年**.....
- 4月×日新制高等学校(旧制中学校+高等女学校+実業学校/三原則=総合性高校・学区制・男女共学)一発足
→普通高校(全日制)・職業高校(定時制)
- 5月×日市立麻布学園高校民主化同盟一結成
- 7月×日東京都立高校自治会連合一結成
(9月18—20日全日本学生自治会総連合(全学連)結成大会(委員長—武井昭夫・機関紙「学生新聞」)
- 11月14日民主主義学生同盟(民学同)一全国結成大会(機関紙「学生戦線」)
- 1949年**.....
- 10月『きけ わだつみのこえ—日本戦没学生の手記—』発行
- 1950年**.....
- (3月27日日本反戦学生同盟(反戦学同)一結成/九州大学—守田典彦)
- 4月22日日本戦没学生記念会(わだつみ会/機関紙「きけわだつみのこえ」)一発足
- 8月×日全国高校新聞連盟(高新連)一結成

1951年

- (2月23～27日日本共産党第四回全国協議会/臨時中央指導部)
- (6月15～17日日本反戦学生同盟第一回全国協議会 (AG) —全国準備委員会 (全国委員会) 設置
(全国常任委員会委員長—山中 明 (富田善朗)・機関紙「反戦旗」)
- 9月1日東京都立小石川高校/反戦学同機関紙「前進」創刊
- 11月3—4日全国高校代表者会議 (東京) /全日本高校協議会 (全高協/日共国際派) 結成

1952年

- 7月×日京都府立鴨沂高校/破防法ストライキ (全国初)
 - *東京都高等学校生徒会懇談会 (都高懇)
 - *武蔵野社会科学研究会連合会 (武蔵野社研連/都立西校・立川校・新宿校・小川台校) —発足

1953年

- 1月28日京都市内高校生徒会代表者懇談会 (京都府高教組) /
京都府高等学校生徒会連絡協議会 (京生連協) 準備会—結成
- 2月21日第2回都内公立高校生徒会代表懇談会/東京都高等学校生徒会懇談会 (都高懇) 発足
- *京都公立学校生徒会連絡協議会 (公生連協) —結成

1954年

1955年

- 4月1—2日全国高校生会議開催 (日共所感派)
- 6月19日東京都高校生会議開催 (日共所感派)
 - (7月27～29日日本共産党第六回全国協議会 (六全協) —徳田球一の死去報告、伊藤律の除名
第一書記・野坂参三、書記・紺野与次郎、志田重男、宮本顕治)

1956年

- (11月23～2日日本反戦学生同盟 (反戦学同・AG) 第一回全国大会
(委員長—中村光男、副委員長—鈴木迪也、書記長—鈴木啓一・機関誌『反戦旗情報』)

1957年

- 1月×日高校生民主協議会 (高民協) —結成～11月
- 3月30—31日反戦学同第9回全国委員会「高校テーゼ」採択
- 5月17日原水爆禁止高等学校生徒会連絡協議会 (原高連/東京) —発足
(5月27日日本社会主義学生同盟 (社学同) —結成第一回大会
委員長/中村光男、副委員長/鈴木啓一、書記長/清水丈夫)
- 8月4日「高民協ニュース」第1号
- 8月17日原水爆禁止全国高校生懇談会 (原高連/東京)
- 9月×日京生連協分裂
(京都府下全日制高等学校生徒会連絡協議会・京都市内公立高等学校定時制生徒会連絡協議会)
- 11月23日第1回全京都高校生の集い (京全生連協/洛北高校)
(12月1日日本革命的共産主義者同盟— (日本トロツキスト連盟改称) /機関紙「世界革命」)

1958年

- 8月11日全日本高校生連合結成準備会 (第4回全水禁世界大会)
- 8月26日勤評反対高校生行動委員会—結成
- 11月30日第2回全京都高校生の集い (京全生連協/)
(12月10日共産主義者同盟 (ブント) 創立大会)

1959年

- 10月×日東京都高等学校活動家連絡協議会 (活連協) —結成
- 10月30日 (11月3日) 安保改定阻止高校生会議/結成
(全学連主流派/ブント・革共同系/議長・鈴木迪夫/後 ML 同盟議長/私立城北高校)
- 10月×日平和と民主主義を守る高校生協議会 (平民高協/全学連反主流派
/東京都立西高校・小山台高校・日比谷高校・教育大学附属駒場高校)

*****1960年代—70年代*****

1960年

- 6月4日和歌山県立新宮高校/平和と民主主義を守る新宮高校会議—結成
- 6月18日京都府立洛北高校/安保阻止統一行動 (円山公園) 450名/「洛北高校新聞」号外/

- 6月18日大阪府立高津高校・天王寺高校・市岡高校他2000人夜間デモ
- 6月18日長野県諏訪清陵高校/学友会総会決議・市内デモ
(6月25—27日民青同第6回全国大会)
- 8月6日日本マルクス主義学生同盟高校支部連合
(機関紙「若きマルクス主義者」創刊号)
- 11月13日大阪府定時制高等学校自治会連合(大定連)結成大会
(貝塚高校・西野田工高校・堺工高校・春日丘高校・河南高校松原分校/有志加盟4026名、有志加盟22校)
- *京都府高等学校生徒会連絡協議会(京生連協)結成
- *社会学同レフト高校全日制支部(機関紙「イスクラ」)
- *社会学同レフト高校定時制支部(機関紙「解放」)
- *社会学同レフト京都委員会高校全日制部(理論機関紙「野火」)
- (6月21日文部省「高等学校の生徒に対する指導体制の確立について」)
- (12月24日文部省「高等学校生徒会の連合的な組織について」)

1961年.....

- (6月4—6日民青同第7回全国大会)
- *高校生会議/結成(安保改定阻止高校生会議の改称/旧第1次ブント系)

1963年.....

- (1月25—27日民青同第8回全国大会/民青同高校班の結成決定)
- *高校生社会主義同盟(高社同/共産同マル戦派系)結成

1964年.....

- 4月×日山崎博昭・岩崎正人・佐々木幹朗・三田誠広、大阪府立大手前高校入学
(5月23—25日第1回日本青年学生大集会/民青同「高校生のたたかいと拡大をすすめよう」)
- 7月×日社会主義高校生同盟(社高同)一結成
- 10月28日大阪府立大手前高校自治会(山崎博昭・岩崎正人・佐々木幹朗・三田誠広)、抗議集会
- *日韓条約阻止全国高校生会議(共産同マル戦派系/高校生会議の改称/機関誌『戦況』)

1965年.....

- (2月28日—3月2日民青同第9回全国大会)
- 4月×日高橋博史、東京都立立川高校入学
- 7月×日高校生マルクス主義研究会一創設/大阪(機関紙「燈台」)
- 7月×日戦争と植民地主義に反対し生活と権利を守る高校生協議会(反戦高協/AGH)結成大会
(機関誌「反戦高協」/革共同中核派系)
- (8月3—4日第1回全国高校生集会/民青同/東京)

1966年.....

- 1月23日反戦高協大阪地方委員会/結成(山崎博昭・赤松英一/機関誌「ケルン」)
- 4月×日西川純(元日本赤軍)伊藤銀次(ミュージシャン)、大阪教育大学附属池田高校入学/
岩田吾郎、私立雲雀ヶ丘学園高校入学/丸岡修(元日本赤軍)、大阪府立清水谷高校入学/
千坂恭二、私立上宮高校入学/府川充男、私立桐朋高校入学
- 4月13日大阪府立大手前高校/「霧笛」N013 新入生特別号(社会科学部)/マル研とは何か?

- 4月29日大阪反戦高協/総会(国民会館)
(5月27—29日第2回日本青年学生大集会/民青同/大阪)
- 8月×日高校社会科学研究会一結成(東京/中核派系)
(8月×日第2回全国高校生大会/民青同/京都)
- 11月20日反戦高協長野県委員会機関紙「東雲」
- 11月23日ベトナム反戦・能研テスト反対全都高校生集会
(反戦高協/日本橋公会堂500)
/全国四百万高校生へのアピール等採択
- *高校社会科学研究会(高社研/東京)



1967年.....

- 4月×日金廣志、東京都立北園高校入学、大谷行雄、東京教育大学附属駒場高校入学
古川あんず（古川 杏子）、東京都立立川高校入学
（9月16-18日民青同第10回全国大会）
（10月8日第1次羽田闘争）
12月13日社学同高校生委員会一結成（渋谷労政会館/
委員長一高橋博史/立川高校→大谷行雄/東京教育大学附属駒場高校～旧高校生会議）
*高校生会議/日韓条約阻止高校生会議の改称
*高校生安保闘争委員会（高安闘委・機関誌「・・・」/ブント系）

1968年.....

- 1月25日教育大学附属池田高校/安保反対集会（学内）/学校不許可・中止/「1・25問題」

-
- （2月×日大阪府立高等学校校長協会/100校の教員と生徒の政治活動調査）
2月11日紀元節反対全都高校生集会（岩田弘/社会文化会館100）
2月25日大阪府立阪南高校/校門、校長室バリケード封鎖/卒業式延期
2月25日大阪府立茨木高校/体育館封鎖/分散卒業式

-
- 3月13日東京都立武蔵丘高校/講堂占拠/警官導入/生徒3名逮捕
3月14日東京都立九段高校/自主卒業式/
3月15日東京都立大学附属高校/校舎封鎖/卒業式中止
3月17日全都高校生反戦卒業集会（東京都庁前デモ）
（3月×日北摂ベ平連結成/坂本洋/機関紙「北摂ベ平連ニュース」）

-
- 4月×日四万田犬彦、東京教育大学付属駒場高校入学
（4月28日沖繩闘争）
4月28日全都高校生反戦集会

-
- （5月1日～フランス「五月革命」）
5月×日大阪府高校生連絡協議会（府高連） - 結成（機関紙「府高連ニュース」ブント系）

-
- 6月15日高校生反戦集会

-
- 8月12日機関誌「戦雲」創刊号（大阪府高校生連絡協議会/府高連）
8月15日全国高校生反戦集会（反戦高協）
8月27日全国高校生10・21闘争実行委員会結成大会（高安闘委/東大）/
委員長一小川敏雄（大阪市岡高校）

-
- 9月2日大阪府立市岡高校/府高連・反帝高評・暴革戦線/校長室バリケード占拠/当日解除
/校務分掌任命制度反対（全国高校闘争の激化）
9月2日東京都立九段高校/始業式反対行動
9月10日大阪府立市岡高校生徒総会・大衆団交400名（運動場）/11日校長、任命制度撤回を表明
9月18日東京都立国立高校/現代思想研究会発足
（9月18日大阪府教育委員会通達/「9・18通達事件」/大阪の高校闘争激化）

「(大阪府教委の)通達は①各学校で生徒指導体制を確立し、教職員間で生徒指導上の共通理解を深め、校長を中心に、全教職員をあげて指導にあたれ ②一人一人の生徒に、教師との人間的接触を深め、家庭との連絡協調を一層密にせよ ③ホームルームその他集団指導に当たって集団の中の個人の責任を自覚させよ ④生徒が個人として政治的集会等に参加することは、社会的経験に乏しく、判断力の未熟から過激な行動に走り、不測の事故などを起こすことも予測されるので、参加することのないよう指導せよ ⑤万一こうした行動をとった場合は、教育的な配慮によって、本人の反省、自戒を促し、再び繰り返さないようつとめよ」(『朝日』68・9・19)

「近く、高校生の政治活動を禁止する文部省通達ができる。その基本方針は-学校外の政治活動は教育的な観点から原則として禁止すべきである。 ②政治的なデモ、集会への参加は認められない。 ③デモ、集会に参加し、違法行為をし

た生徒に対しては、学校は処分を含めた適切な措置をとるべきである。」(『朝日』 69・10・31)

9月22日神奈川県立横浜緑ヶ丘高校/緑高反戦高校生委員会(反戦高委)発足

(10月17日東京都教育委員会「高等学校生徒の指導について」通達)

10月19日神奈川県立小田原高校/「解散宣言」/小田高解放学友戦線

(10月21日国際反戦デー)

12月21日神奈川県立横浜緑ヶ丘高校/羽仁五郎講演会(講演企画委員会)

12月25日反戦反安保都高連結成全都高校生総決起集会

*反戦高校生連絡会議/結成(反戦高連・機関誌『高校生戦線』『ケルン』/革共同革マル派系)

*全大阪高校生反戦行動委員会(準)/共労党系

*全大阪国際主義高校生戦線(機関紙「叛逆」/第4インター系)

*全国反帝高校生評議会連合/結成(反帝高評・機関誌「レーテ戦士」/社青同解放派系)

1969年.....

1月6日高校生反戦闘争委員会一結成(社青同解放派系)

(1月18・19日東大安田講堂攻防戦・神田カルチャータン闘争)

1月18日反戦反安保南大阪高校生集会(桃山学院大学)

1月23日大阪府高校生自治会連合準備会・結成(反戦高協・ヤングベ平連・)

1月26日青高反戦会議一結成(東京都立青山高校)

2月11日紀元節粉碎・卒業式闘争勝利全都高校生総決起集会
(2・11実行委員会/明治公園/反日共系高校生700)

2月11日建国記念に関する討論会(勤労会館/
京都高校生自治会連合準備会)

2月13・14日大阪府立富田林高校討論会(生徒会)/13日佐藤訪
米抗議・安保廃棄・沖縄奪還統一行動大阪大会(大阪総評)の教
師の参加・不参加問題

2月24日大阪府立池田高校/卒業式ボイコット闘争
(池田反戦会議)

2月25日大阪府立茨木高校/卒業式粉碎体育館封鎖—
茨木高校反戦会議・反戦高協・全大阪高校生反戦行動委員会

2月25日大阪府立阪南高校卒業式/校舎バリケード封鎖—
阪南高校反戦会議・反戦高協30人

2月25日大阪府立東淀川高校卒業式—抗議/総決起集会
(反戦会議/H全斗)

「能力別学級編成は学歴偏重に起因する大学受験の激化に対抗すべき策と
して当然といえば、当然かも知れません。しかし、それが正しいか否かと



いことは別問題です」「これでは先生と生徒の心のふれあいがなくなり、あの入学当時の胸をふくらませていた私
たちから、次第に遠ざかってゆくように思えるのです。」—東淀川高校の自主答辞—(『朝日』 69・11・1)。

2月28日大阪府立茨木工業高校/卒業式独自答辞

3月1日広島県立広島皆美高校卒業式/学業証書受け取り拒否

3月8日東京都立足立高校/卒業式抗議行動

(3月11日東京都教育委員会「高等学校における生徒指導上の配慮について」通達)

3月13日東京都立武蔵丘高校卒業式/MO反戦/反戦高協/30名突入

3月14日東京都立九段高校/卒業式演壇占拠/学校批判答辞
3月15日大阪府立池田高校/終業式ビラ配布「池高在校生に訴える」(「反戦ニュース」反戦会議)
3月17日大阪府立清水谷高校/「受験生の諸君へ!」ビラ配布
3月19日全都高校生卒業式闘争決起集会(芝公園/反戦高協等)
3月20日大阪府立清水谷高校/立て看板(清水谷反帝反戦連合評議会)
3月21日東京都立国立高校/高校生活の欺瞞と虚偽を打破するための全校共闘会議結成
(3月25日「四・二八を突破口として、七〇年へ戦列を強化せよ!」(五派共同宣言)
革命的共産主義者同盟・共産主義者同盟・社会主義労働者同盟・
日本革命的共産主義者同盟(第四インターナショナル日本支部)・日本マルクス・レーニン主義者同盟)

4月×日古賀滋(社青同解放派)、東淀川高校入学(72年関西大学2部入学)
4月×日前田年昭、私立灘高校入学/坂本龍一、東京都立新宿高校入学
4月3日福岡県立小倉高校/本館三階塔屋に赤旗、垂れ幕/北九州高連・社会学同高校委
4月8日大阪府立池田高校/入学式糾弾行動/警官導入/4月9日警官導入問題生徒総会
「新入生諸君のために」(6人委員会)
4月8日大阪府立清水谷高校/5項目公開質問状タテカン(校内問題研究再建準備委員会)
4月9日教育大学附属池田高校/始業式/四項目要求
4月17日京都市立日吉ヶ丘高校/バリ封鎖一反戦高協(4.28 沖縄奪還闘争への決起)
(4月26日東京都教育委員会「四月二八日の事態に対する生徒指導と校舎等の管理について」通達)
4月27日全国高校生総決起集会(法政大学)
(4月21日「共同声明」-革命的共産主義者同盟・共産主義者同盟・日本マルクス・レーニン主義者同盟
日本革命的共産主義者同盟(第四インターナショナル日本支部)・社会主義労働者同盟・共産主義労働者党・
統一社会主義同盟・全学連・反戦青年委員会・沖縄闘争学生委員会・三里塚反対同盟・砂川基地反対同盟・
マルクス主義学生同盟中核派・社会主義学生同盟・全国学生解放戦線・全国反帝学生評議会・
国際主義共産学生同盟・共産主義学生同盟・プロレタリア学生同盟・社会主義学生戦線フロント・
東京大学全学共闘会議・教育大学全学闘争委員会・中央大学中央闘争委員会・日本大学全学共闘会議・他27団体)
(4月28日沖縄闘争)
(4月28日沖縄闘争)
4月30日大阪府立天王寺高校/生徒総会・「朝日新聞」4月27日記事「沖縄問題になやむ高校」批判
(天高生連合「7項要求」)
4月×日大阪府立池田高校/社研同好会/池高有志連絡協議会・機関紙「変革」

5月11日大阪府立池田高校/反戦会議第1回大会/全学闘争委員会結成

7項目要求1:全面自治権獲得 2:生徒の政治活動の自由 3:職員会議の公開、生徒の参加発言権
4:差別教育粉碎 5:顧問性廃止 6:官憲立ち入りに対する生徒の拒否権 7:日の丸掲揚の廃止

5月24日70年安保を闘う高校生大政治集会
5月×日神奈川県立緑高校/映画「三里塚の夏」上映
5月28日大阪府立天王寺高校/全天高総決起集会(天高反戦)
5月31日愛知訪米阻止!大阪府教委通達反対全大阪高校生統一集会(扇町公園200)/
大教組沖縄奪還フェスティバル糾弾闘争(扇町プール)
(全大阪国際主義高校戦線、天高反戦他)/第4インターの分裂

6月1日「沖縄奪還大教組全員集会」における高校生反戦諸組織の行動について
(第四インター日本支部関西地方委員会書記局)
6月9日5・31大教組沖縄集会及び同盟関西地方委声明に関する声明
(第四インターナショナル日本支部日本革命的共産主義者同盟中央政治局)

- (6月8・9日ASPAC粉碎(アジア太平洋閣僚会議・伊豆伊東)現地闘争)
 6月9日大阪府立豊中高校/「豊陸新聞」第167号(豊陸新聞編集局)/部落差別表現掲載/
 6月10日東京都立北高校/プール設置反対総決起集会/新聞部・北高会議・森の声
 (6月12日日教組「高校生の政治活動に対する見解」発表)
 6月13日大阪府立豊中高校/「豊陸新聞」第167号回収決定
 6月14日豊能高共闘結成大会(大曾公園)/
 池田高校全闘委・反戦会議・豊中高校反戦連合・箕面高校反戦会議・北淀高校全闘委解放派
 6月14日全関東高校生政治集会(明大・社会主義学生同盟高校生委員会一委員長・大谷行雄)
 6月16日大阪府立豊中高校/「新聞部及び学校当局を糾弾する」ピラ(豊中高校反戦連合)

豊陸新聞第167号に「集会だピラだと騒いでいる“有志”は無自覚的無意識の大衆から見ると、あたかも“特殊部落の住人”の如く全く彼ら(無意識的大衆)とは違った世界の住人のように見える」といった内容の小論が掲載されている。これは明らかに未解放部落そのものを差別した文章である。豊高に於ては最も進歩的な人材が結集している筈の新聞部に於てこのような差別文書が出された。この事実は新聞部がこれ迄、生徒心得に発現されている所の諸矛盾に対し闘って来たふりをして来た事が全くの偽装である事が暴露され、又新聞部員が人間として最も基本的な精神をも持ち合わせていない事も暴露された。我々はかような新聞部及び同部員に対し、以上の様な批判を加え、かつ自己批判を断固要求するものである。

- 6月21日教育大学附属池田高校/大阪教育大学教職員組合附属池田校舎部会・結成
 6月23日大阪府立清水谷高校/大衆団交
 6月24日大阪府立市岡高校/全学共闘会議準備会/集会、校内デモ
 6月25日大阪府立豊中高校/同和問題講演会/関西部落研究会メンバー壇上占拠

そしてこの事実が一部で明らかにされた時点に於て新聞部内に於て自己批判の気運が発生したにもかかわらず、大衆的に露見し、学校教育(豊高教育)の反動性、偏向性がそこに於て暴露されることに恐怖した学校当局は、これをもみ消し、単に新聞回収によって我々から隠蔽した所で收拾しようとした。しかも回収の理由たるや、ミス・プリントという全く事実と合致しない、印刷屋に責任を転嫁したものであった。この事は学校当局が口では否定していながらも、権力者、抑圧者として自己の醜悪な本性を暴露したものである。我々はこの問題と、そして未解放部落問題等につき、今度のそして今迄の反動偏向性を自己批判し、かつ現実及びその分析結果を教育(?)の場において発表することを確認する事を断固、要求する。
 豊中高校反戦連合

- 6月28日大阪府立清水谷高校/「検印制を全廃せよ—6.23公開団交から」ピラ

- 7月4日大阪府立豊中高校/「誓約書」提起(関西部落研究会)
 7月7日大阪府立豊中高校/関西部落研の入校/機動隊導入/試験延期

「朝日新聞」(7月7日(夕刊))
 乱入学生に警官隊 豊中高/集会開き授業中止 校内荒らす二人逮捕
 豊中市上野五丁目、大阪府立豊中高校(中野次男校長、生徒数千四百四十人)に七日早朝、関西部落研究会を名乗る学生ら十四、五人が乱入、校長室、事務室、放送室などの窓ガラスを割るなどあばれ回った。このため中野校長は豊中署に警官隊の出動を要請、午前九時すぎから約五十人の警官隊が校内にはいり、残っていた部外者ばかり二人を不退去罪の疑いでとらえた。
 外部グループは正門で阻止しようとした同校の先生四、五人を突きとばして乱入、先生四人がカサで突かれたりしてけがをした。また逮捕者を連行しようとした警官隊を阻止しようと、同校北門で部外者二、三人とともに豊中高校の生徒約四十人がスクラムを組んだため、警官隊ともみ合い、生徒二、三人も軽いけがをした。同校自治会はこのあと、学校側の措置を不満として全校集会を開き、中野校長らを追及したため、三時間目以後の授業が中止された。

全校集会は午後零時四十分ごろ、ひとまず終わった。一部生徒は、校内の民主化を求めて期末試験の延期などを要求しているの、午後から各学級ごとに同問題などについて話合うという。同校の高校新聞にのった記事をめぐって、差別問題が起きたため、同校では同和教育の講演会を先月二十五日開こうとしたところ「部落解放同盟」を名乗る反戦系の大学生らが押しかけ、講演会が流れた。その後も外部グループがたびたび押しかけ、学校側は部会者の立入りを禁止していた。

7月10日大阪府立豊中高校/糾弾集会（部落解放同盟）/

7月16日駿台学園高校/全駿台総決起集会/

駿台叛戦闘争総連合革命的左翼主流派/7月11日機関紙「叛戦」創刊号

7月18日反戦高協第1回全国大会（法政大）

二十五府県代表700名参加、指導手引書粉碎闘争等を決定

7月18日大阪府立豊中高校/全学闘争委員会結成

7月19日指導手引書粉碎全都高校生決起集会（清水谷公園/700）

7月19日告訴抗議集会（大阪教育会館公園）、府高教組事務所に突入

7月19日大阪府立夕陽丘高校/始業式壇上占拠/夕陽丘反戦会議



（8月28日共産同赤軍派一結成総会（議長一塩見孝也、政治局一八木健彦、田宮高磨、堂山道生、高原浩之、上野勝輝、花園紀男）

8月31日静岡県立掛川西高校/掛西闘争勝利・手引書体制粉碎全国高校生決起集会

（6・9アスパック反対闘争逮捕者退学処分反対/掛川公園/500）

9月1日～20日大阪府立市岡高校/連続的講堂、校門、校長室バリケード封鎖（反戦高協）

/11日大阪府教組「市岡高校問題を正しく解決し、民主教育を守り発展させるために」/

20日校長室封鎖撤去

9月1日大阪府立東淀川高校/能力別学級編成抗議集会

9月3日東京都立青山高校/全学闘争委員会一結成（青高反戦会議）

（9月5日全国全共闘結成大会/日比谷野外音楽堂）

9月6日大阪府立高津高校/校舎バリケード封鎖/国際主義高校戦線・高津反戦会議



9月12日東京都立青山高校/校長室バリケード占拠（全学闘争委員会）

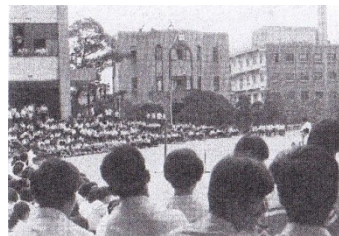
（警官隊導入、封鎖解除、ロックアウト）

9月13日全大阪高校生共闘会議（全共闘）一結成（桃山学院大学250名）

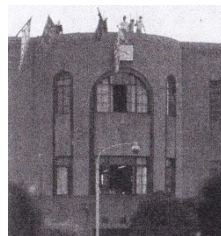
9月15日東京都立青山高校/青山高校全学共闘会議結成/全闘委の改称



正門 (1969.9)



生徒集会 (1969.9)



済美館 (図書館) (1969.9)

9月16日大阪府立清水谷高校/
正門、校舎バリケード封鎖/
国際主義高校生戦線
9月16日大阪府立春日丘高校

学校施設器物破壊

9月17日桃山学院高校/F館校舎のバリケード占拠/7項目要求/全国高校闘争委員会11名

9月17日大阪教育大学附属池田高校/校舎西館バリケード封鎖①/教官による解除

9月17日大阪府立春日丘高校/バリケード封鎖/全校集会

9月18日桃山学院高校/全校集会・ホームルーム/7項目要求討議/
反戦高協・全高闘連



全校集会

9月18日大阪府立夕陽丘高校/校長室、職員談話室バリケード占拠/
夕陽丘反戦会議+阪南高校反戦会議+高津高校反戦会議

9月18日大阪府立豊中高校/授業ボイコット・屋上占拠
(全学闘争委員会—全闘委)

9月18日大阪府立旭高校/校長室占拠

9月18日大阪府立天王寺高校/通達粉碎全天高決起集会(主催 ATA150名)

9月18日大阪府教委通達粉碎決起集会(大高連/反戦高協/大手前公園110名)

9月19日/11月14日/12月6日大阪教育大学附属池田高校/校舎封鎖/(大阪府教育委員会通達粉碎)

9月19日全国高校生反戦闘争委員会連合—結成(社青同解放派系)

9月19日青山高校全学共闘会議(全共闘)—結成(全闘委の改称)

9月19日大阪府立東淀川高校/封鎖/能力別クラス編成撤廃要求

9月27日大阪府立天王寺高校/「教育労働者」糾弾集会(ATA)

9月27日安保粉碎沖縄闘争勝利全国高校生統一行動/高校生安保粉碎共闘会議(高安共闘)—結成

〈清水谷公園/高校生安保闘争委員会(共産同)、反戦高校生協議会(革共同中核派)

高校生解放戦線(ML同盟)、安保粉碎高校生戦線(統社同)、全国高校生闘争連合(共労党)

プロレタリア軍団高校生評議会(プロ軍団)~新左翼六派共闘)

9月28日広島県立広島学院高校/体育祭を告発する!

9月28日東京都立青山高校/校舎再封鎖

9月29日青山高校全共闘、8教室バリケード封鎖占拠

9月29日大阪府立夕陽丘高校/校長室占拠/夕陽丘反戦会議

9月29日北海道小樽潮陸高校「潮陸新聞」号外「職員会議決定に抗議として三年の一部帽子焼く」

9月30日千葉県立千葉東高校/バリケード封鎖/

10月3日私立麻布高校/文化祭乱入・事務所占拠・機動隊導入/10月5日・機動隊再導入/

10月7日無期限学校閉鎖

10月6日千葉県立千葉高校/図書館バリケード封鎖/機動隊導入/女生徒ら9人逮捕

10月6日東京都立九段高校/職員室封鎖

10月8日東京都立日比谷高校/加蘭会館の封鎖—全闘連/17日機動隊が解除/22日再封鎖—28日解除



10月10日全都高校生総決起集会（清水谷公園）/高安共闘/新左翼六派共闘

10月11日大阪府立夕陽丘高校/校長室再占拠/夕陽丘反戦会議

10月13日東京学芸大学附属高校/校舎、事務室、正門玄関バリケード封鎖/
附属高校全共闘5項目要求

10月14日東京都立竹早高校/全校集会

10月14日大阪府立淀川工業高校/校舎封鎖（検閲制度粉碎）

10月15日東京都立上野高校/生徒会定期全体集会・自主全校集会・HR討論会

10月15日東京都立玉川高校/管理棟第1棟封鎖

10月15日東京学芸大学附属高校/全校集会（HR委員会）

10月17日桃山学院高校/全闘委生徒11名/無期停学処分決定

10月18日東京都立駒場高校/教室封鎖

10月18日東京都立葛西工業高校/生徒ハンスト

10月19日東京都立文京高校/教室封鎖

10月20日東京都立桜町高校/新館封鎖

（10月20日東京都教育委員会「高等学校における生徒指導ならびに校舎の管理について」通達）

10月20日東京都立南高校/一部生徒によって職員室封鎖/26日自主解除

10月20日桃山学院高校/全闘委「処分反対」「管理主義的受験体制反対」/授業ボイコット

10月21日東京都立青山高校バリケード封鎖占拠解除—機動隊との攻防（14人逮捕）

10月21日東京都立城南高校/校舎封鎖—反戦共闘委員会

（検閲制度撤廃、職員会議の公開要求）

10月21日長野県立長野高校/反戦集会30人バリケード封鎖/反戦高協

（10月21日国際反戦デー/新宿・高田馬場、大阪・北大阪制圧）

10月22日東京都立立川高校/校舎2階バリケード封鎖/「反戦・反安保・教育秩序に総叛乱を」

10月23日神奈川県立希望ヶ丘高校/バリケード封鎖—希望ヶ丘闘争委員会/「生徒心得」全面廃止）

10月23日東京都立上野高校—バリケード封鎖/26日解除

全日制闘争委員会（五項目要求） /11月自主ゼミナール開始

10月23日神奈川県立希望ヶ丘高校/第四棟校舎バリケード封鎖/全学集会

10月24日広島県私立修道高校/全学闘争委員会、校舎封鎖

（制服廃止、職員会議公開、退学処分撤回） /11月10日全闘委、校舎再封鎖

（10月24日東京都教育委員会/「高等学校授業の早期適正常化についての基本方針」

「高等学校授業の早期正常化について」通達）

10月26日東京学芸大学附属高校/機動隊導入、封鎖解除/生徒12名警察連行

10月26日東京都立国立高校/バリケード封鎖未遂（国立全共闘）

10月27日大阪府立清水谷高校/校門、図書館バリケード封鎖/

10月27日東京都立上野高校/五項目要求（全日制全学闘争委員会（全闘委）/28日校舎1階封鎖）

10月27日東京都立国立高校/バリケード封鎖失敗/28日全校生徒集会

10月29日東京都立江戸川高校/教室封鎖

10月29日東京都立北園高校/封鎖

10月30日東京都立城北高校/管理室・教室封鎖

10月30日東京都立上野高校/学校「回答」/「教師の声明」/
31日全闘委、封鎖自主解除



「朝日新聞」(1969.10.27)

各都道府県教育委員会教育長・各都道府県知事・付属高等学校をおく各国立大学長・各国立高等学校長あて

文部省初等中等教育局長通達

高等学校における政治的教養と政治的活動について

大学紛争の影響等もあって、最近、一部の高等学校生徒の間に、違法または暴力的な政治的活動に参加したり、授業妨害や学校封鎖などを行なったりする事例が発生しているのは遺憾なことである。このようなことを未然に防止するとともに問題に適切に対処するためには、平素から、教育・指導の適正を期することが必要であるが、特に高等学校教育における政治的教養を豊かにするための教育の改善充実を図るとともに他方当面する生徒の政治的活動について適切な指導や措置を行なう必要がある。

これらのことについては、かねてより都道府県教育長協議会、都道府県教育委員会指導事務主管部課長会や全国高等学校長協会においても検討されているところであるが、これらの団体や高等学校PTA等多くの高等学校教育関係者から、問題の重要性と緊急性にかんがみ、統一的な見解ないし指導のよりどころとなる指針を求める声が強いので、文部省としても、上記諸団体や学識経験者の方々の協力を得て、関係者相互の共通の基本的理解のもとに、生徒に対し適切な指導が行なわれることを期待して次のような見解を取りまとめた。高等学校における政治的教養と政治的活動について

第一 高等学校教育と政治的教養

一 教育基本法第八条第一項に規定する「良識ある公民たるに必要な政治的教養は、教育上これを尊重しなければならない。」ということとは、国家・社会の有為な形成者として必要な資質の育成を目的とする学校教育においても、当然要請されていることであり、日本国憲法のもとにおける議会制民主主義を尊重し、推進しようとする国民を育成するにあたって欠くことのできないものである。

二 生徒の発達段階、高等学校の現状とりわけ高等学校への進学者の著しい増加および最近の社会情勢などを考慮すると、高等学校教育における政治的教養を豊かにするための教育(以下「政治的教養の教育」という。)がよりいっそう適切に行なわれる必要がある。

三 高等学校における政治的教養の教育を行なうにあたっては、次のような基本的な事柄についてじゅうぶん配慮する必要がある。

(一) 政治的教養の教育は、教育基本法第八条第二項で禁止している「特定の政党を支持し、又はこれに反対するための政治教育その他政治的活動」、いわゆる党派教育やその他の政治的活動とは峻別すること。

(二) 学校教育は、単に政治的教養のみならず、生徒の全人的な教養の涵養を目的とするものであるので、政治的教養の教育にかたよりすぎることなく、他の教育活動と調和のとれたものであること。

(三) 政治的教養の教育は、生徒が、一般に成人とは異なつて、選挙権などの参政権を制限されており、また、将来、国家・社会の有為な形成者になるための教育を受けつつある立場にあることを前提として行なうこと。

第二 高等学校における政治的教養の教育のねらい

一 将来、良識ある公民となるため、政治的教養を高めていく自主的な努力が必要なことを自覚させること。
二 日本国憲法のもとでの議会制民主主義についての理解を深め、これを尊重し、推進する意義をじゅうぶん認識させること。

三 政治的事象を客観的に理解していくうえに必要な基礎的な知識、たとえば民主主義の理念、日本国憲法の根本精神、民主政治の本質等について正確な理解を得させるとともに将来公民として正しく権利を行使し、義務を遂行するために必要な能力や態度を養うこと。

なお、その際、国家・社会の秩序の維持や国民の福祉の増進等のために不可欠な国家や政治の公共的な役割等についてじゅうぶん認識させること。

第三 政治的教養の教育に関する指導上の留意事項

一 指導上の一般的留意事項

(一) 政治的教養の教育は、教科においては、社会科での指導が中心となるが、政治的教養の基礎となる生活態度を身につけさせるためには、ホームルームその他の特別教育活動・学校行事等においても適切な指導を行なうこと。

(二) 指導にあたっては、学習指導要領に基づいて、指導のねらいを明確にし、系統的、計画的な指導計画を立てるとともに学習の内容と関係のない問題を授業中みだりに取り扱わないようにすること。

(三) 特別教育活動および学校行事等における指導にあたっては、本来のねらいを逸脱することなく国家・社会の一員として共同生活を営むうえに必要な生活態度が身につくように、特に次のような事項について配慮す

ること。

ア ホームルーム、生徒会活動などにおける討論を通じて自己の意見を正しく表明するとともに、他人の意見にじゆうぶん耳を傾け、これを尊重するという態度を身につけさせるようにすること。

イ ホームルーム、生徒会などの集団活動に生徒が積極的に参加し、活動することを通じて望ましい人間関係が育成されるようにすること。

二 現実の具体的な政治的事象の取り扱いについての留意事項

政治的教養の教育については、上述した教育のねらいおよび指導上の留意事項をふまえて適切な指導を行なうことが必要であるが、特定の政党やその他の政治的団体の政策・主義主張や活動等にかかわる現実の具体的な政治的事象については、特に次のような点に留意する必要がある。

(一) 現実の具体的な政治的事象は、内容が複雑であり、評価の定まっていないものも多く、現実の利害の関連等もあつて国民の中に種々の見解があるので、指導にあつては、客観的かつ公正な指導資料に基づくとともに、教師の個人的な主義主張を避けて公正な態度で指導するよう留意すること。

なお、現実の具体的な政治的事象には、教師自身も教材としてじゆうぶん理解し、消化して客観的に取り扱うことに困難なものがあり、ともすれば教師の個人的な見解や主義主張がはいりこむおそれがあるので、慎重に取り扱うこと。

(二) 上述したように現実の具体的な政治的事象については、種々の見解があり、一つの見解が絶対的に正しく、他のものは誤りであると断定することは困難であるばかりでなく、また議会制民主主義のもとにおいては、国民のひとりひとりが種々の政策の中から自ら適当と思うものを選択するところに政治の原理があるので、学校における政治的事象の指導においては、一つの結論をだすよりも結論に至るまでの過程の理解がたいせつであることを生徒に納得させること。

なお、教師の見解そのものも種々の見解の中の一つであることをじゆうぶん認識して教師の見解が生徒に特定の影響を与えてしまうことのないよう注意すること。

(三) 現実の具体的な政治的事象は、取り扱い上慎重を期さなければならない性格のものであるので、必要がある場合には、校長を中心に学校としての指導方針を確立すること。

(四) 教師は、その言動が生徒の人格形成に与える影響がきわめて大きいことに留意し、学校の内外を問わずその地位を利用して特定の政治的立場に立つて生徒に接することのないよう、また不用意に地位を利用した結果とならないようにすること。

なお、国立および公立学校の教師については、特に法令でその政治的行為が禁止されている。

(五) 教師は、国立・公立および私立のいずれの学校を問わず、それぞれ個人としての意見をもち立場をとることは自由であるが、教育基本法第六条に規定されているように全体の奉仕者であるので、いやしくも教師としては中立かつ公正な立場で生徒を指導すること。

第四 高等学校生徒の政治的活動

最近、一部の生徒がいわゆる沖縄返還、安保反対等の問題について特定の政党や政治的団体の行なう集会やデモ行進に参加するなどの政治的活動を行なつたり、また政治的な背景をもつて授業妨害や学校封鎖を行なうなど学園の秩序を乱すような活動を行なつたりする事例が発生している。

このような事態にかんがみ、上述したねらいや指導上の留意事項等に基づいた政治的教養の教育が平素より適切に行なわれるようにすることが必要であるが、しかし当面しているこのような事例に適切に対処するためには、これに加えて、生徒の政治的活動に関し、下記のような事項についてじゆうぶん配慮する必要がある。

一 生徒の政治的活動が望ましくない理由

学校の教育活動の場で生徒が政治的活動を行なうことを黙認することは、学校の政治的中立性について規定する教育基本法第八条第二項の趣旨に反することとなるから、これを禁止しなければならないことはいうまでもないが、特に教育的な観点からみて生徒の政治的活動が望ましくない理由としては次のようなことが考えられる。

(一) 生徒は未成年者であり、民事上、刑事上などにおいて成年者と異なつた扱いをされるとともに選挙権等の参政権が与えられていないことなどからも明らかであるように、国家・社会としては未成年者が政治的活動を行なうことを期待していないし、むしろ行なわないよう要請しているともいえること。

(二) 心身ともに発達の過程にある生徒が政治的活動を行なうことは、じゆうぶんな判断力や社会的経験をもたない時点で特定の政治的立場の影響を受けることとなり、将来広い視野に立つて判断することが困難となるおそれがある。したがつて教育的立場からは、生徒が特定の政治的影響を受けることのないよう保護する必要があること。

(三) 生徒が政治的活動を行なうことは、学校が将来国家・社会の有為な形成者として必要な資質を養うために行なつている政治的教養の教育の目的の実現を阻害するおそれがあり、教育上望ましくないこと。

(四) 生徒の政治的活動は、学校外での活動であつても何らかの形で学校内に持ちこまれ、現実には学校の外と内との区別なく行なわれ、他の生徒に好ましくない影響を与えること。

(五) 現在一部の生徒が行なつている政治的活動の中には、違法なもの、暴力的なもの、あるいはそのような

活動になる可能性の強いものがあり、このような行為は許されないことはいうまでもないが、このような活動に参加することは非理性的な衝動に押し流され不測の事態を招くことにもなりやすいので生徒の心身の安全に危険があること。

(六) 生徒が政治的活動を行なうことにより、学校や家庭での学習がおろそかになるとともに、それに没頭して勉学への意欲を失なってしまうおそれがあること。

二 生徒の政治的活動を規制することについて

基本的人権といえども、公共の福祉の観点からの制約が認められるものである。さらに、生徒は、主として未成年者を対象とする高等学校教育を受けるという立場にある以上、高等学校教育の目的を達成するために必要なかぎりにおいて、その政治的活動は次のような種々の制約を受けるものである。なお、定時制課程等には成年に達した生徒も在学しているが、これらの生徒については成人としての権利を行使する場合等において他の生徒と異なつた取り扱いがなされる場合もあるが、高等学校教育を受けるという立場においては学校の指導方針に従わなければならない。

(一) 教科・科目の授業はいうまでもなく、クラブ活動、生徒会活動等の教科以外の教育活動も学校の教育活動の一環であるから、生徒がその本来の目的を逸脱して、政治的活動の手段としてこれらの場を利用することは許されないことであり、学校が禁止するのは当然であること。なお、学校がこれらの活動を黙認することは、教育基本法第八条第二項の趣旨に反することとなる。

(二) 生徒が学校内に政治的な団体や組織を結成することや、放課後、休日等においても学校の構内で政治的な文書の掲示や配布、集会の開催などの政治的活動を行なうことは、教育上望ましくないばかりでなく、特に、教育の場が政治的に中立であることが要請されていること、他の生徒に与える影響および学校施設の管理の面等から、教育に支障があるので学校がこれを制限、禁止するのは当然であること。

(三) 放課後、休日等に学校外で行なわれる生徒の政治的活動は、一般人にとつては自由である政治的活動であつても、前述したように生徒が心身ともに発達過程にあつて、学校の指導のもとに政治的教養の基礎をつちかっている段階であることなどにかんがみ、学校が教育上の観点から望ましくないとして生徒を指導することは当然であること。特に違法なもの、暴力的なものを禁止することはいうまでもないことであるが、そのような活動になるおそれのある政治的活動についても制限、禁止することが必要である。

三 生徒の政治的活動に関する留意事項

学校は、平素から生徒の政治的活動が教育上望ましくないことを生徒に理解させ、政治的活動にはしることのないようじゆうぶん指導を行なわなければならない。その際、次のような点について留意する必要がある。

(一) 学校は、平素から生徒の希望等に耳を傾け教師と生徒との意思の疎通を図り、人間関係を深めるとともに生徒の動向を的確にはあくし、生徒がその本分に反するような行動を行なうことのないよう全教師が協力して指導にあたること。

(二) 一部の生徒が自らの主義、主張を実現するために他の生徒の授業を妨害したり、教室や学校を封鎖したり、またその他暴力的な行動や学園の秩序を破壊するような行動を行なつたりすることは、たとえどのような理由があつても許されないことを生徒に認識させること。

なお、学校の平素からこのような事態が発生した場合に対処する方針を確立しておくことが必要である。万一不測の事態が起こつた場合には、学校は毅然たる態度で生徒にのぞむとともに、一部の生徒のために学校の正常な授業の運営が阻害されるようなこととならないよう努力すること。

(三) 家庭との連絡を密にし、生徒の政治的活動に対する学校の指導方針について保護者の理解と協力を求めるとともに、適切な機会を通じて絶えず家庭や関係各方面との連携を図ること。

(四) 学校が教育上望ましくないとして指導したり、制限したり、禁止したりしたにもかかわらず、生徒が政治的活動を行なつた場合、その活動の実態、状況に即して判断した結果、指導だけではもはや教育上の効果が期待できない場合には適切な措置をとること。

なお、懲戒には本人に対する教育作用の面と他の生徒への影響や学校の秩序維持の面があることにじゆうぶん留意して、適切な措置を講ずることが必要である。この場合、国家・社会の法や秩序に違反するような活動や暴力的な行動については、常に毅然たる態度で適正な処分を行なうべきであることはいうまでもない。

11月3日東京学芸大学附属高校/生徒34名処分決定

11月7日東京都立目黒高校/「青い星」/民青同目黒高校

11月8日文部省手引書体制打破全都高校生決起集会（清水谷公園/150）

11月8日新潟県立新潟高校/バリケード封鎖80名/反戦高協/機動隊封鎖解除

11月10日大阪府立生野高校/バリケード封鎖～13日/全学闘争委員会（「表現の自由」要求）

11月11日東京都立石神井高校/封鎖—石神井反戦協議会

11月12日大阪教育大学附属池田高校/校舎西館再封鎖②/三項目要求

11月13日千葉県立薬園台高校/「天誅」第4号/(薬園台高校全学共闘会議)

11月13日全国高校生ゼネスト中央総決起集会

11月13日大阪市立住吉商業高校/通用門封鎖(文部省見解反対)

11月13日私立麻布高校/全学集会

(11月13日佐藤訪米実力阻止総決起集会(扇町公園・プロ学同・岡大生・糟谷孝幸君虐殺)

11月14日大阪教育大学附属池田高校/機動隊導入・封鎖解除



11月15日東京都立新宿高校/校長室占拠/坂本龍一・塩崎恭久

11月15日大阪府立池田高校/バリケード封鎖

(11月16・17日佐藤訪米阻止闘争(11月決戦)一品川、蒲田、池上2千名逮捕)

11月17日大阪府立豊中高校/四項目

要求ハンガーストライキ

《四項目要求》

- 一、府教委通達拒否声明
- 二、文部省見解反対声明
- 三、生徒心得二十二項即時撤廃
- 四、思想調査に関係した教職員は自己批判せよ

11月17日大阪府立夕陽丘高校/校舎南館バリケード封鎖/夕陽丘反戦会議

11月20日鳥取県立由良育英高校/処分白紙撤回デモ

11月22日大阪府高校生自治会連絡会議準備会(反戦高協・ヤングベ平連・・)

11月22日愛知県立旭丘高校/

あなたは、どうお考えでしょうか?(文部省「高校生の政治活動」/103組有志)

11月26日東京都立北高校/封鎖—12月26日機動隊突入、封鎖解除

(11月26—28日民青同第11回全国大会)

11月30日高校全共闘全都評議会結成大会

11月×日大阪府立三国丘高校/全学闘争委員会—結成

12月1日東京都立国立高校/生徒会総会/事業再開決定

12月1日大阪府立池田高校/三年生A・B授業ボイコット座り込み開始

12月6日大阪教育大学附属池田高校/校舎西館・東館封鎖③/六項目要求/12月16日自主解除

- 1:機動隊導入自己批判 2:文部省通達反対 3:封鎖解除批判 4:期末テスト中止
- 5:生徒会規則8条・36条撤廃 6:自主講座 7:大衆会見

12月7日東京都立志村高校/校舎封鎖—全共闘

12月8日東京教育大学附属駒場高校/校舎風散—教駒全共闘(大谷行雄他)

12月8日東京都立立川高校/全学総決起追及集会

12月9日東京都井草高校/バリケード封鎖



12月10日大阪府立豊中高校/校長室・職員室・事務室等校舎1階バリケード封鎖（全闘委20名）
/12月12日自主解除

「あの六・七月闘争で、学校側は授業、考査等を改革すると言明した。欠点、席次、実力考査等の廃止などを言ったが、現実には、これらのものは、実質的に存在しているし、なんら改革などなされていないのである。」（全闘委ピラより一部抜粋）

（12月19日全国全共闘第2回大会）

12月20日反戦高協大政治集会/安保高戦高校生大政治集会

12月23日全関東高校生総決起集会

12月24日大阪府立三国丘高校/「反三国丘新聞」創刊/新聞部闘争委員会一結成

*国際主義高校戦線（F I H/機関誌「槌と鎌」/第4インター系）

*高校生反戦協議会（高反共/東京/統社同系）

*高校生反戦闘争委員会（高反委/統社同系）

*高校生反戦連絡会議（高反連/統社同系）

*安保粉碎高校生連合（安保高連・機関誌「若きジャコバン」/統社同系）

*全国反帝高校生戦線連合（反帝高戦・機関誌「・・・」/統社同系）

*全国高校生闘争連合（全高闘連/共労党系）

*プロレタリア高校生同盟（共労党系）

*プロレタリア軍団高校生評議会（武装蜂起準備委系）

*大阪高校生委員会（革マル派系）

*アナキスト高校生連合（アナ高連）/アナキスト高校生戦線+黒色高校生連盟/結成

*全国浪人共闘会議/結成

*全大阪浪人共闘会議/結成

1970年.....

1月10日尼崎市立城内高校（定時制）/民主教育の徹底・校長不信任全員投票（生徒会）

1月10日私立麻布学園高校/始業式反対行動

1月12日大阪府立豊中高校/団交要求（「T革評」12名）

1月14日大阪府立豊中高校/団交・校長軟禁（全闘委・T革評）

1月15日大阪府立豊中高校/生徒9名仮処分

1月15日全都高校生統一集会

1月18日東京都立神代高校/三多摩高校生総決起集会/1. 18統一集会実行委・神代高全学闘争委員会）

1月23日熊本県立熊本高校/全学闘争委員会・熊本地区高校生共闘会議、突入
（「生徒の政治活動に関する指導指針」反対）

1月26日新潟県立新発田高校/五項目要求/新発田高校全学闘争委員会

2月4日東京都立葛西工科高等学校/バリケード封鎖

2月10日私立麻布学園高校/中庭集会要求/2・11闘争統一実行委員会/校長交渉

2月11日紀元節粉碎・卒業式闘争勝利全都高校生総決起集会

2月11日紀元節反対集会（大曾公園/豊中市）

2月20日私立麻布学園高校/校長室占拠

2月21日大阪府立清水谷高校/卒業式闘争委員会(卒闘委)結成大会

2月24日大阪府立清水谷高校/卒闘委図書館占拠、校内デモ



2月24日大阪府立豊中高校/総合シンポジウム(自主卒業式)/市街デモ(全闘委・二学年共闘会議・豊高べ平連)

豊中高校 2.24 総合シンポジウム/豊中市街デモ に向けて!!

真の教育をわれわれの手に— 差別=選別の全ての受験教育体制粉碎

▶ その日我々豊高生は信じる全てのものを失った。

—髪の毛をつかまれて隊列の中に引きずり込まれる者。腿をしたたかにけり上げられてその場にうづくまる者。片目を押さえた男子がいきなりよろける様にして列から離れて来る。このとき警官隊ともみ合っていた生徒たちの目に一体何人の教師が見えたらう。初めて触れた“権力”の灰色の壁は無言にして冷たく素朴ですらあった。——

そして多くの負傷者をだした衝突が終った時、北摂の名門豊中高校にはもはや教育の姿はなかった。

▶ 高校教育はすでに以前から“教育の場”としての使命を放棄していた。おもえば「教え子を再び戦場に送るな。」の合いことばで歩み出した戦後教育の道はそのまま薔薇色の彼岸の彼方を目ざしていたのかもしれない。しかし、戦争を知らぬ我々が今までおとなしく管理されていた殻をつき破り、教育総体の批判にのり出したとき、——我々の“告発の刃”は今まで“絶対性”のペールに包まれていた“神話”にも容赦なく襲いかかる。そして我々は自身の目ではっきりとみた。

“戦後民主主義の神話”の上に安住してきた戦後教育史の黄昏を。

[* ●卒業式典を如何に位置づけるのか——]

▶ 我々の歩んできた三年間をふりかえてみた時、そこにあるのはおよそ真の教育と

はかけ離れたまぎれもない受験体制の姿であろう。そして現在に至るまで歪んだ教育体制すなはち(ママ)差別と抑圧の受験体制のもとでどれ程の不満が、苦悩が、あがきが、生まれそうしてその度におしつぶされていったらう。そして、まさに、そうした教育の矛盾に向けてつきつけられた有志の主体的変革=解放への志向すら当局のあくなき管理者的対応によって、どれだけの黙殺そして圧殺に抑えられてきただらう。

まさしく我々の歩んできた三年間は人間が人間でなくなっていく絶えざる不安の連続でなくて何だらう!

そうして今、当局は欺瞞に満ちた一生一代(ママ)の名演を演じようとしている。卒業式典—それはまさに我々が歩んできた差別=選別の受験体制の集約点として存在するのだ。言い換えるならば、点数のみによって「エリート」労働力そして「劣等生」=単純労働力の別に巧みにふりわけ、それぞれ“分”相応の知識を施し—“卒業証書”を付与することによって“分”をあらわすレッテルをはり大学受験そして入社試験というせり市を通し、資本に向けて労働力商品を出してゆくそのような一つのセレモニーとして卒業式は位置づけられているのである。

よって、現在自治会を利用した当局の懐柔策としてある“自治会の自主管理による卒業式”等の改革案は卒業式の本質を歪曲隠蔽する以外の何ものでもない。

我々は“自主卒”“在校生との交流”という美辞麗句にまどわされ、酔いしれてはいけな。

卒業式とは三年間の歪んだ受験体制を美化し、全ての矛盾をオブラートに包む一つのイデオロギー統制の場として存在するのだ。そして、イデオロギー統制と労働力商品の完成とが表裏一体を成して卒業式の本質を形成しているのである。

しかしながら、昨年各校で激化した卒業式造反は“自主答辞”といえども“形式”を否定し得ず、それらが、無展望かつ単発ショックアップン晴らし—の域をのりこえる[ことが]なかったが故に、真の造反たり得なかったのである。

——単なる物理的粉碎に終わらずに、それを如何にして発展させるのり越えるか——

今日、我らに提起された克服すべき課題であらう。

▶ 学問・教育はつねに人民の側に立たねばならない。今日その本性をあらわした国家

権力の大学そして高校への介入は、権力の反人民性なるが故にもつ、本来人民の側にある学問・芸術を支配せんとする衝動——否それは資本主義の生死にかかわるのである。——の体現化として見なければ事の本質をついていない。そして“大学の自治”は大学人の特権身分を守るためにあるのではなく、又大学を民主的改良するためにあるのではなく——人民の側に立つ学問の自由を守る為にあり、そうであるが故に権力の介入には直接対決の姿勢でもって望(ママ)まねばならない。そして自治会とは対権力闘争を推進するが故にその当然の発展として、大学革命の域を越え政治的急進主義として政治闘争へと進むのである。同様に高校自治においては、民主主義への訓練の場、あるいは、話し合いによる交流の場そして学園の民主的改良の場としてのポツダム自治会をのりこえた下からの運動隊(ママ)としての闘う自治会—に始(ママ)めて自治本来の姿を見いだすのである。

▶ 歴史の流れは反動期にもその歩みを止めない。

歴史の潮流は今日、資本主義の没落そして人類の社会主義的発展の方向をはっきり示している。

その様な歴史の一大転換期にあつて、我々の成すべき当為は唯一。——全ての神話のペールをはぎとり、全ての体制矛盾に対し容赦なく“告発の刃”でもって挑む中での人民の側に立つ社会の形成である。——

造反せよ！そして造反せよ！全ての矛盾を告発せよ！

歴史の流れは決して我々を裏切らない。 2. 24 デモ実行委員会（二学年共闘会議・豊高べ平連）

- 2月24日千葉県立薬園台高校「挽歌」（自主卒業式実行委員会）
- 2月25日長崎県立佐世保北高校/卒業式突入/18人逮捕/反戦高協
- 2月25日大阪府立市岡高校/卒業式粉碎行動
- 2月25日大阪府立清水谷高校/卒業式闘争

- 3月1日京都市立洛陽工業高校/卒業式演壇占拠
- 3月17日大阪府立清水谷高校/清水谷全共闘書記局「受験生諸君へ！」ビラ
- 3月18日私立麻布学園高校/全校集会/改革案採択
- 3月21・22日全国反帝高評結成大会（400名）
- 3月25日反戦高協第2回全国大会会（32都道府県1600名・法政大学）
- 3月27・28日全闘高連活動者会議（大阪）
- 3月30日反戦高連全国大会（24都道府県700名・東京麻布公会堂）

- 4月10日神奈川県立横浜緑ヶ丘高校/職員室バリケード封鎖/4月闘争/CCU
- 4月15日鳥取県立由良育英高校/「由良育英高新聞」第77号育英闘争特集
- 4月25日東京都立国立高校/放送室占拠
- 4月25日沖縄闘争勝利高校生総決起集会
（4月28日「蜂起戦争派集会」（清水谷公園・400/12・18 ブント、共産同赤軍派、日共革命左派、
同大全学闘、京大C戦線）

- 6月5日私立灘高校/生徒会評議会
- 6月6日福島県立伝習館高校/教育委員会3教師懲戒免職処分/「伝習館」闘争開始
- 6月6日大阪教育大学附属池田高校/公開質問状（全学共闘会議）
- 6月13日奈良女子大学附属高校/校舎封鎖（高校入学時の40人カット廃止）
- 6月19日「三高襲撃事件」/宮城県立仙台第三高校～宮城県内高校生17人、職員室突入
- 6月20日全都高校生総決起集会
- 6月22日私立灘高校/全校集会
- 6月23日北海道立札幌南高校生徒会（反戦高連/革マル派系）安保反対ストライキ決議/
8月8日生徒86人処分/8月15日全学闘争連絡会議/大衆団交一「札南闘争」
- 6月24日私立灘高校全学闘争委員会一結成（前田年昭）

1970年6月24日

灘高全学闘争委員会結成大会基調報告（前田年昭）

灘高全学闘争委員会

本日の6・24 灘高校全学闘争委員会結成大会に結集されたすべての闘う学友 諸君！

われわれは今日ここに〈灘高解体〉を戦略スローガンとして全共闘運動をめざす闘う部隊の結集体として灘高校全学闘争委員会を結成した。（一言付け加えるならば、結成する組織は全学闘争委員会であり「連合」という二字を付け加えていない。つまり従来のような高2闘争委員会、高3闘争委員会の特殊状況をそのままにした上での連合でなく、全学単一組織として〈灘高解体〉全共闘運動を確立するために結成することを軸として統一しなければならないということである。）

60年代階級闘争は、あのベトナム革命の能動的展開をバネとしてアジア・アフリカ・ラテンアメリカの民族解放闘争、中国文化大革命及び先進国における反戦闘争をひきおこしていった。日本においても、学生革命派を主力とする闘い、とりわけ67年10・8佐藤訪ベトナム阻止羽田闘争より2年あまりにわたる闘いによって、ブルジョア独裁の一

形態で あるポツダム民主主義の本質をあばきだし、左から解体してゆく中から日本人民 は“暴力革命”の質と“反帝国主義”の質を自らのものとしてきた。

こうしたマルクス・レーニン主義の実践的復権のみならずポツダム民主主義——ポツダム自治会・党派全学連の矛盾を止揚する日本における独創的組織であり、運動である〈全共闘〉を生み出した。そして日大・東大を頂点とする闘いが帝国主義大学解体をめざす闘いへと発展し「学問の自由」「大学の自治」等の欺瞞性を暴露する 中で、われわれ（高校生にとっても）の幻想の集約体としての東大、あるいは別の意味での日大においても〈幻想〉がつぶされていった。

さらに日常性（自明性）の中に埋没している自己の存在（そしてその地位、意識）を対象化することを強いてゆく中から高校の価値自体、「教育とは……、教師とは……、高校とは……」を〈問い〉はじめた。そして 68 年大学闘争の質は掛川西高、青山高、日比谷高、関西においては東淀川高、尼崎北高をはじめとする 69 年の高校闘争にうけつがれたのだった。

今日の教育は「義務」教育から大学教育に至るまですべてブルジョア私教育にほかならない。それまでは文字通り支配階級の「私教育」であったが、資本制「公教育」は被支配階級すべてを対象としたブルジョア「私教育」として国家権力によって制度化されていったのだった。それは労働者として一定の質——手には技術を！——と、従順なイデオロギ——心には日の丸を！——を持たせるものである。

そして中高等教育は、中・高級労働者・管理者養成のためのものであり、なかでも灘高は“東大合格 150 余人”に象徴されるように高級官僚、高級技術者、体制イデオロギーの宣教師などを作り出す東大を頂点とする国立大学へ通ずる道を保障する“灘受験技術教習所”であり、〈差別構造〉の頂点に立っている。

ところが、一方で「国民の利益」＝「社会の利益」＝「国家の利益」という国家共同体幻想が作りあげられ、一方において、教育幻想、民主幻想（「自治」なども）をふりまく高校共同体幻想がつくられて、両者が奇妙な癒着を示すことによって、この「教育」の階級性がおおいかくされる。

しかし、これは単に高校問題なのではなく、全教育体系の問題である。単位・成績などがすぐ個別利害に結びつくのを見てもわかるように、学歴・学校較差などによる“分割支配の原則”が貫徹している。

そこでは「灘高生」等という「特殊化」が大きな働きをしており、これを保障する一つの重要な手段として、「入学試験」がある。さきにも述べたような高校〈共同幻想〉を支えるものとして、この〈差別構造〉があるのだ。そこで、われわれは（特に〈差別構造〉のトップに位置する灘高においては）〈人間〉ランクづけ「受験体制」総体を闘いの対象とする中から、大学入試を頂点とする試験制度——通常試験（中間、期末など）も含めて——を粉碎（全廃へ！）していき、差別構造解体闘争の一環にまで高めていかなければならない。

〈灘高解体〉とは、このような帝国主義高校——（日帝、さらにそれと同盟を結んでいる米帝など）帝国主義に奉仕して、その人材を養成し、帝国主義的世界・〈差別〉社会秩序のための階層選別をやっている、〈差別〉を作り出している元——部落・沖縄・朝鮮があるから帝大・灘高がある——の一つである灘高という「組織」を破壊することである。

われわれに「教育外的・学問外的」強制、腐敗、抑圧をもたらし人間の能力の開花を阻害している教育とは何か！ 教育者は何らかの権限（権威）がなければ、被教育者に「文化」伝達ができない。この関係こそ“教育”と呼ばれるものであり、問題はその「関係のあり方」——「権限」にある。例えば「単位認定権」「成績評価権」さらに「教育権」などを教師に独占され、支配—被支配の貫徹する一つの権力構造を形成する現行の「授業」「試験」が果して〈教育〉なのか！ われわれはこのようなすべての権限の剥奪とすべての権力の全闘委への集中——二重権力的状況——を作り出していかねばならない。

これを権力闘争として 闘い抜くならば武装実力闘争は必須の条件である。また、二重権力を構築し得たとしても、極めて一時的であり、擬似的なものにすぎず、われわれの闘争は権力の創造—失敗—創造—失敗の連続的過程であるこ

とを確認しておきたい。

また各地の高校においても「処分」「機動隊導入」など 10・31 文部省見解がなされているように、これら諸権限は国家権力に媒介されたものとしてあるため、われわれの闘争は体制変革—世界革命勝利の日まで永続的に続けられなければならない。〈全共闘運動〉が示した大切なことの一つとして、〈文化革命〉なしに〈革命〉はできないということがあげられる。人間解放をめざす永続革命を提起したのだった。

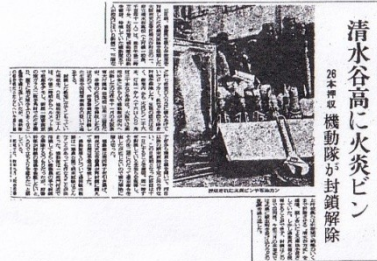
結局、政治だけでは決してカタがつかないのだ。われわれは教科書などと対決して授業の内的解体をすすめてゆく中から、日常の授業停止——権力の「内側からの解体」を目標としていかなければならない。灘高の特殊性をみると、それが私学であることから文部省—県教委—校長などという直接の「支配の論理」がみえないこと、上昇志向文化—立身出世主義が〈全共闘以後〉もほとんどゆるがず（これが一方的「知識」つめこみを受けさせる）〈差別幻想〉でいっぱいであること、極めて目的社会化され（“受験技術教習所”）近代合理主義的であること、しかもそれが支える資本制イデオロギーの補完物としての民主幻想—（全員加盟制ポツダム）生徒会が高校秩序の重要な一環として幻想の集約体の一つとなっていること（特に！）、政治活動も一定程度「自由」であり（「灘高は他校に比べて比較的自由である」！）長髪規制撤廃闘争においてもみられたように学校当局の状況先取りが「速く、うまい」こと、体制反対派としての日共・民青系勢力が一定程度強く、右へ右へと闘争を集約しようとするなど、などがあげられる。闘争前史として、われわれは昨年春の長髪規制撤廃闘争、秋の H.R.闘争を語るができるが、あまり大衆化せず、圧倒的昂揚をつくりだすことはできず、先進的学友は学内においては、闘争主体の不十分性、職員会側の先取り状況の中で、ほとんど何もできなかったと言ってよい。

第 22 回卒業式が「無事」おわる中から 3 月末、高 2（現高 3）から全闘委結成の提唱があり、高 2 闘争委員会、高 3 闘争委員会の連合体としての全学闘争委員会連合（全闘連）が結成され、灘高 闘争は第 2 期を迎えた。そして 4・26 沖繩闘争に 2 ケタの部隊で登場して以来、5・12、5・30、6・7、6・12 そして 6・21、6・23 など街頭闘争を戦闘的に担ってきたが「街頭政治屋」的限界を破ることができなかった。

6 月に入り、6・20～6・23（のち 6・23～6・25）安保—高校ストへ、正しい路線の提起とそれによる大量宣伝により、学内に大胆に流動化をひきおこし、昂揚をつくりだす中から、全闘連内部で、それまでの不十分性を総括し、一—われわれが街頭闘争に注ぎ込んでいるエネルギーを、単にそれのみに終わらせることなく、「生活の場」高校における闘い＝教育闘争に還元させ、それを高校教育秩序総体、受験体制総体に対決するものへと高めてゆくことが必要であることを認識した上で——〈全共闘運動〉構築をめざす部隊が、内部における理論闘争をへて、先進部隊として全闘委を結成したのだった。学友諸君！ これらをふまえた上で、調査・批判・宣伝・組織を能動的に行ない、大胆に全闘委への結集をはかる中から、全帝国主義教育秩序に総反乱をひきおこし、全共闘運動（大衆武装、二重権力、永続闘争）創出へ、進撃しようではないか！ 灘高解体！ 試験制度全廃！ 差別教育粉碎！ 教育の帝国主義的再編粉碎！ 全教育秩序に総反乱を！ 1970 年 6 月 24 日



1970. 7



「読売新聞」(1970. 7. 4)

7 月 3 日大阪府立清水谷高校/期末考査第 1 日目校舎封鎖（清水谷高校全共闘）

7 月 3 日大阪府立清水谷高校/生徒 9 名無期停学・5 名停学 7 日・9 名嚴重注意決定

7 月 6—8 日私立灘高校/全闘委ハンガーストライキ

7 月 12 日神奈川県立川崎高校/全学集会/・教師集団を断固糾弾する！

（7 月 15 日「統一赤軍」—結成（共産同赤軍派と日共革命左派・機関誌『銃火』）

7 月 17 日反戦高連第 2 回全国大会

7 月 20 日反帝高評第 2 回全国大会

9月26日入管法阻止・反戦高協結成記念集会

(10月21日国際反戦デー)

11月21日全国反帝高評決起集会

12月24日琉球政府立首里高校/金城さんれき殺事件等民政府抗議行動1100人/首里高校生徒会

*全国国際主義高校生委員会(第4インター系)

*暴力革命高校生戦線(プロレタリア軍団高校生評議会結成準備会・機関誌「高校学園階級闘争」)

1971年.....

1月23日北海道札幌東高校卒業式闘争委員会/結成

7月14日京都教育大学附属高校/宿直室封鎖/11月11日教務室封鎖

(受験教育体制に乗った附属高教育粉碎)

7月16日京都教育大学附属高校/機動隊導入・封鎖解除/生徒4名逮捕

10月3日私立麻布学園高校/団交要求武装突撃隊校内突入/機動隊導入

10月6日私立麻布学園高校/山内打倒共闘会議一結成

10月7日私立麻布学園高校/山内一郎校長代行学校ロックアウト

10月17日福島県立福島女子高校/福女に反戦高協旗翻る/「とりで」統一号

(福高反戦会議・福女反戦会議・反戦高協)

11月15日私立麻布学園高校/全校集会/山内校長代行辞任/闘争勝利

11月29日福島県立磐城高校ハンスト突入/磐城全学闘争委員会

12月24日兵庫県立甲陽学院高校/

「カルチェ・ラタン」第4号(甲陽反帝国主義共闘会議)甲陽反帝共闘基調報告

1972年.....

(2月19~28日連合赤軍5名一あさま山荘銃撃戦一肅清「連合赤軍事件」/12名死去/発覚)

(5月30日PFLPパトリック・アルグレロ隊・リッダ闘争(テルアビブ国際空港襲撃闘争)

奥平剛士(京大)・安田安之(京大)戦死、岡本公三(鹿児島大)捕虜一「赤軍声明」

11月20日宮城県仙台第一高校/沖縄返還協定批准阻止の学内デモ150名/仙台一高全学共闘会議

1973年.....

6月9日東京都立南高校/南高校の闘いの報告/南高校2・7共闘

7月15日京都教育大学附属高校/討論会

7月20日東京都立大森高校/「連合」N03(「全団連通信」改称)/

全学闘争委員会/教育の帝国主義的再編粉碎!

1974年.....

5月22日東京都立府中高校/「飛翔」第1号(新聞部)家庭科教育を告発する

8月2日第47回原水爆禁止世界大会/高校生部会一設置/第1回全国高校生平和集会(広島)

1975年.....

(4月30日ベトナム戦争終結/ベトナム革命)

1977年.....

(8月12-18日中国共産党第11回大会/プロレタリア文化大革命終結)

1982年.....

11月×日船橋地区高等学校生徒会交流会一発足(千葉県)

1983年.....

5月20日「学校解放新聞」創刊（保坂展人/青生舎）

1984年.....

2月×日船橋・習志野地区高等学校生徒会連盟一結成（千葉県）～85年

1991年.....

（*ソビエト連邦崩壊）

1993年.....

3月3日制服向上委員会/第1弾シングル「制服宣言」発売/～2006年9月24日卒業記念公演一解散

2013年.....

3月29-30日全国高校生徒会大会（東京参議院会館講堂）

2015年.....



7月×日T-ns SOWL(ティーンズソウル)一結成

(10月5日文部科学省ヒアリング/

10月29日文部科学省

「高等学校等における政治的強要の教育と高等学校等の生徒による政治的活動等について」(通知)

11月8日安保法制反対デモ(T-ns SOWL(ティーンズソウル)/原宿)

12月19日安保法制反対デモ(T-ns SOWL(ティーンズソウル)/東京・関西)

12月21日毎日新聞「政治活動 学校に届け出」/届出制

2016年.....

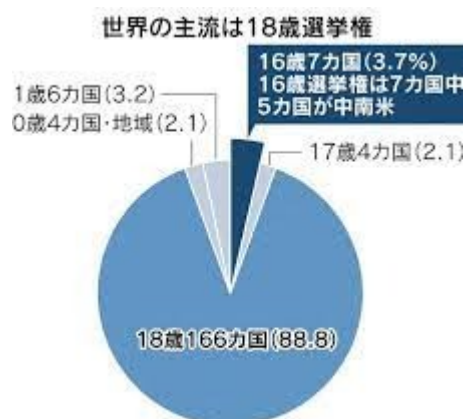
2月7日T-ns SOWL(ティーンズソウル)/

「私たちは高校生である前にひとりの国民であり主権者であることを忘れません」アピール

2月21日0221 安保法制に反対する航行し全国一斉デモ(T-ns SOWL(ティーンズソウル))

3月28日東京弁護士会

「高校生の政治活動の自由を保障するため、文部科学省の10月29日付け通知とその運用についてのQ&Aの撤回を求める会長声明」



所)国立国会図書館の2020年の調査に基づく。二院制の国は下

18歳・19歳の国政選挙投票率



(6月4日・17日衆参通常国会で18歳選挙権法案成立/22日施行)

(7月10日第24回参議院議員総選挙/18歳選挙権)

2017年.....

(10月22日第48回衆議院議員総選挙/18歳選挙権)

2021年.....

(2月21日ミャンマー軍事クーデター)

8月6日第48回全国高校生平和集会(オンライン)/高校生平和ゼミナール全国連絡センター

2022年.....

(2月20日ロシア軍のウクライナ侵略開始)

3月16日兵庫県立国際高校/ウクライナ支援募金活動

7月30日渋谷教育学園渋谷高校/UKRAINE×JAPAN 中高生フォーラム(オンライン)

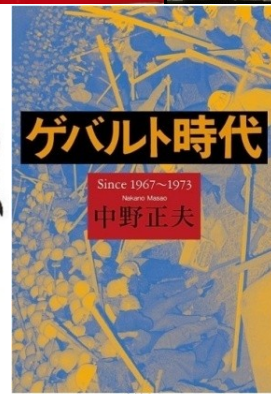
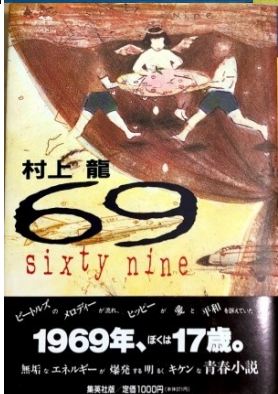
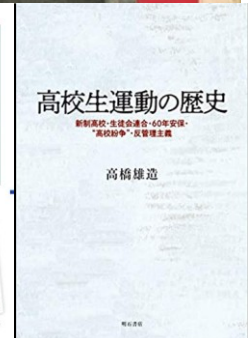
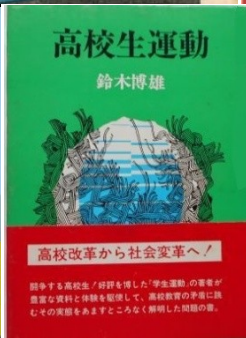
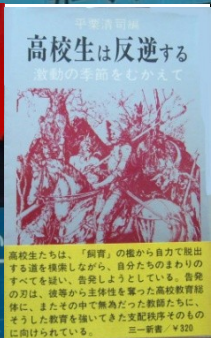
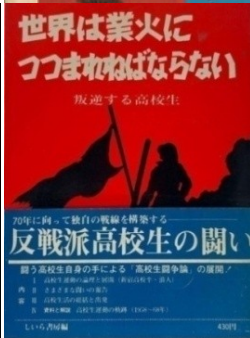
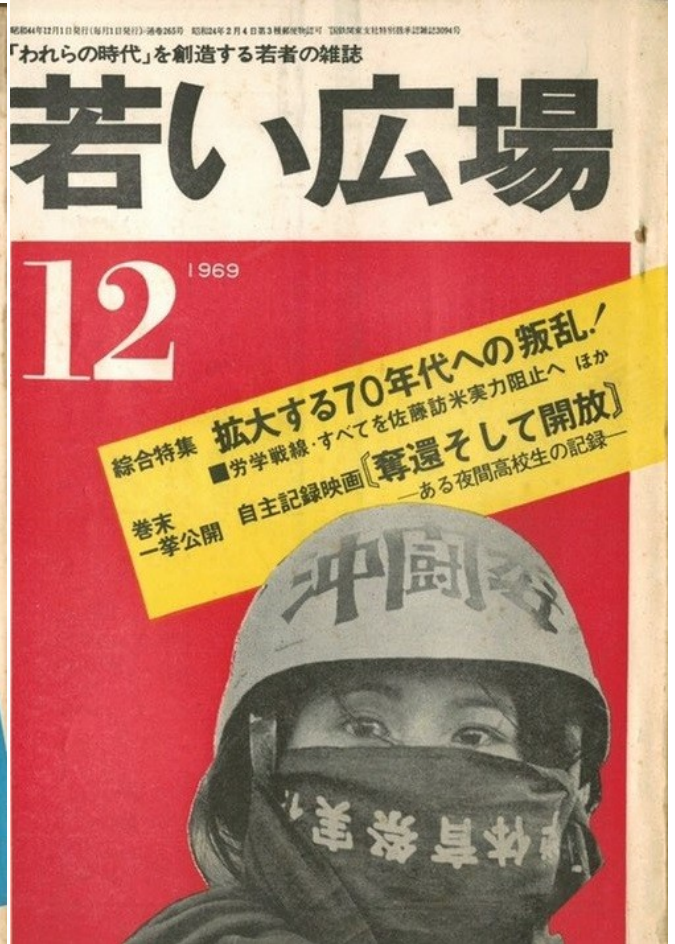
8月×日高校生平和ゼミナール/外務省に署名提出(13000)

2023年.....



2月23日ロシア大使館前抗議行動(東京高校生平和ゼミナール・東京学生平和ゼミナール)

<参考資料>



- 「月刊若い広場」(若い広場社 1957~2007)
- 「世界は業火につつまねばならない! 叛逆する高校生」(しいら書房 1969)
- 「高校生は叛逆する一激動の季節をむかえて」(平栗清司/三一書房 1969)
- 「高校生運動」(鈴木博雄/福村出版 1969)
- 「高校生の政治活動」(鈴木博雄/福村出版 1969)
- 「反戦派高校生」(竹内静子/三一新書 1970)

「高校生四五〇万の叛乱」(稲垣真美/講談社 1970)
 「高校紛争の記録」(中沢 道明/編/学生社 1971)
 「東京の高校紛争 -教育への挑戦に就いて-」(北沢弥吉郎/第一法規出版 1971)
 「日比谷高紛争と一教員・生徒の歩み」(大河原礼三/第一法規 1971)
 「元気印大作戦—学校解放文庫(角川文庫/1985)
 「69—sixty nine」(村上龍/集英社 1987)
 「学校の中の事件と犯罪 1」(批評社 2002)
 「ハイスクール 1968」(四方田犬彦/新潮社(新潮文庫) 2008)
 「ゲバルト時代 Since 1967~1973」(中野正夫/筑摩書房(ちくま文庫) 2011)
 「高校紛争 1969-1970 - 「闘争」の歴史と証言」(小林哲夫/中公新書 2012)
 「高校闘争資料集(ピラ、新聞など)」(小林哲夫)
 「高校紛争：戦後教育の検証」(柿沼 昌芳・永野 恒雄・田久保 清志/批評社 2015)
 「問う！高校生の政治活動禁止—18歳選挙権が認められた今」(久保友仁他/社会批評社 2015)
 「投票せよ、されど政治活動はするな？」(石崎学他/社会批評社 2016)
 「いつの日も泉は湧いている」(盛田隆二/小学館(小学館文庫) 2016)
 「本牧ベイサイド・ハイスクール —1970年、僕たちはゲバ棒を持たなかった—」
 (菊地 亮二/コロナ出版 2015)
 「高校生運動の歴史 -新制高校・生徒会連合・60年安保・“高校紛争”・反管理主義-」
 (高橋 雄造/明石書店/2020)
 「鉄筆とピラ「立高紛争」の記録 1969—1970」(都立立川高校「紛争」の記録を残す会/同時代社 2020)
 「合唱音楽と政治運動」(高野幹英/柘植書房新社 2022)
 「資料戦後学生運動」(全8巻/三一書房 1970)
 「校則も生徒会もない理由 麻布、「自由」への高校紛争」(おおたとしまさ/ネット/2019)
 「仙台一高で闘った僕たちの軌跡 大衆運動の研究」(作間信彦/2011?)
 「高校紛争とは何だったのか 都立立川高OB50年後の回想」(ネット/2020)

謝辞！ブログ野次馬雑記提供—Y氏

[No11 野次馬雑記/1969年高校生たちの闘い](#)

[No12 野次馬雑記/1969年高校生たちの闘い その2](#)

[No22 野次馬雑記/1969年 高校生たちの闘い 卒業式編](#)

[No23 野次馬雑記/1969年 高校生たちの闘い 卒業式編その2](#)

[No33 野次馬雑記/高校生たちの闘い ある活動家の日記 1967—1969](#)

[No434 野次馬雑記/週刊アンポで読む 1969—70年高校生たちの闘い\(鳥取県立育英高校\)](#)

[No436 野次馬雑記/週刊アンポで読む 1969—70年高校生たちの闘い\(都立日比谷高校\)](#)

[No437 野次馬雑記/週刊アンポで読む 1969—70年高校生たちの闘い\(神奈川県立平塚江南高校/都立大附属高校/都立駒場高校\)](#)

[No 456 野次馬雑記/週刊アンポで読む 1969—70年 高校生たちの闘い\(都立青山高校\)](#)

[NO457 野次馬雑記/週刊アンポで読む 1969—70年 高校生たちの闘い\(都立青山高校続編\)](#)

[No 469 野次馬雑記/週刊アンポで読む 1969—70年 高校生たちの闘い\(都立立川高校\)](#)

[No 470 野次馬雑記/週刊アンポで読む 1969—70年 高校生たちの闘い\(都立立川高校\) その2](#)

[No475 野次馬雑記/週刊アンポで読む 1969—70年 高校生たちの闘い（私立城右高校）](#)

[No514 野次馬雑記 /週刊アンポで読む 1969—70年高校生たちの闘い（都立竹早高校）](#)

[No538 野次馬雑記/ 高校闘争から半世紀～私たちは何を残したのか、未来への継承 第一部](#)

[No539 野次馬雑記/高校闘争から半世紀～私たちは何を残したのか、未来への継承 第二部](#)

[No540 野次馬雑記/高校闘争から半世紀～私たちは何を残したのか、未来への継承 第三部](#)

[No544 野次馬雑記/1969年 高校生たちの闘い（國学院大学久我山高校）](#)

[\[豊中高校:1969\] このサイトについて - Memories1969](#)

[国高 1969 | 1969年、国立高校で何が起きていたのか \(snowmole6.sakura.ne.jp\)](#)

[YouTube<掛川市映像アーカイブ> 1969年8月31日 掛西紛争](#)

[YouTube 高校闘争から半世紀～私たちは何を残したのか、未来への継承～
第I部「1968年は我々に何をもたらしたか」高校全共闘パート（金廣志・高橋順一・池田実・藪山惣吉・
安田宏・福井紳一・大谷行雄）](#)

[YouTube 高校闘争から半世紀～私たちは何を残したのか、未来への継承～
第I部「1968年は我々に何をもたらしたか」山本義隆さんの応答](#)

[YouTube 高校闘争から半世紀～私たちは何を残したのか、未来への継承～ 第II部「運動の現場から（香
港の学生の闘い）」香港パート（初沢亜利・陳逸正・劉燕子・船橋秀人）](#)

[YouTube 高校闘争から半世紀～私たちは何を残したのか、未来への継承～ 第III部「いま高校生は社会と
どう向き合っているか」若者パート（司会 小林哲夫）](#)